### 青井記念館美術館

### はぐくみ会だより

第 25 号

平成20年4月1日



所蔵作品紹介

(24)

青山盈斅先生像 」

八郎

画

(640×515)

れた。その間、油絵の歴代 37年校章・制服の制定、そ 36年工芸品展覧会始まる。 の人を容れて急を救っている。 巻物一巻が残されている。 校長肖像画7点と学校史絵 学科の素描や図案を担当さ 和2年から20年まで工芸系 よう。先生は、42年発病、 なる。又、国内・海外展覧会 の他校内校外活動が盛んと 被災者の収容所として多く 火が発生、創校時の校舎を 代校長として着任された。 翌年一月逝去。享年56歳。 によって形づくられたといえ 会が誕生、35年会誌の発行、 直後、6月には高岡市の大 尚美」の精神は青山先生 への出品と受賞も多くなる。 より高きを求めてやまない 明治32年4月、本校第三 画家の佐藤八郎先生は昭 工芸学校では、32年尚美

くの美術品を視察された。 中国・京阪地方に赴き、多 中国・京阪地方に赴き、多 中国・京阪地方に赴き、多 中国・京阪地方に赴き、多 中国・京阪地方に赴き、多

## 第 11

## 14 一青井中美展

11月21日(水)~ 12月6日(木)

を輝かせて見入っている姿が印象的でした。 らに休日には多くの中学生が来館し、自分の作品や入選・入賞作品に目 各部門とも秀作が揃い、選考には時間がかかりました。 番査員、受賞者等多数のご出席をいただき挙行しました。 は平均45%でした。例年、絵画部門の応募が高い傾向にありますが、 約2週間の開催期間中は、連日父兄や親戚の方々で賑わいをみせ、さ 昨年11月21日(水)に第14回青井中美展開展式、 本年度は参加校56校、応募作品数70点、うち入選は38点となり、 並びに表彰式を来賓

### Always 青井大賞

合いがさわや た構成と明る い色彩の響き 大きくとらえ 絵の道具を





## 薫里さんの作品

品に仕上げている。

達への思いや人柄が

クさと造形性 「大粒の涙」 泣く表情を独創的な表現で捉えたユニー 柴田 和希さんの作品



興市への旅で見た山々や、 さらに福光町の友好都市中国紹

山肌

い山々や、

動物、

里山の景色、

教室の指導等で活躍されている。

会場には小矢部川上流の奥深

に刻まれた仏像など大作7点他

見

## A WayS」に込めた思い

来場者を魅了していました。

一月から二月にかけて降雪期

南

南画もあり、

20点の力作により

中今江林石古畑神広谷松一酒北本東高延黒森江宝高柴藤西森村井守 田嶋 林田口田原井 多海田對川川尻性田田岡尾麻帆 史 絵寺 さ 真和太祐 乃康保正 千理 朋知泰理 彩侑千香や 和智実薫武稔子桜香宏里太嵩嘉未愛未代江子恵香香扇奈か望希幸子里

作品に込め、表現したいと思います。 れました。思いは信念に変わりました。次は、 そうすれば良いことがある。「A-ways」はそれを証明してく 時は絵を見るのも嫌になってしまいました。それでも、友達や先生 ていました。しかし、四ヶ月ほど描いているとその思いは薄れ、 に描きあげました。<br />
最初は初めて描く油絵に、<br />
たくさんの思いを持っ にたくさんのアドバイスをもらい、絵を描き上げることが出来ました。 嫌になっても途中で投げ出さず辛抱する、周りの声に耳を傾ける、 今回、大賞を頂いた「A-ways」。私はこの絵を約一年かけ 砺波市立出町中学校 もっと自分の思いを 森

訪れ、

楽しく交歓し鑑賞され

氏と永年の交友があった方々も 越しいただきました。又、石崎 砺市から多くの方に遠方からお の寒い時期にもかかわらず、

いたのが印象的でした。

特特特特佳佳佳佳佳佳佳佳佳生生 別別別別 賞賞賞賞作作作作作作作作作作作

## 富山県知事賞

りの印象を、力強 クジャク」 西尾真実子さんの作品 華やかなクジャ





げている。 で華麗にまとめ上 と色鮮やかな色調

### 触が暖かく残り、 Akihiro's face 粘土を扱う指の感 富山県教育委員会教育長賞 藤岡 智幸君の作品 友



悠久景岩 (122×161) 町を中心 本画家と 在住の日 は南砺市 して福光 石崎氏 1月22日(火)~2月17日(日)

同窓生ギャラリー

## 「石崎外志雄 日本画展」



楽しく見ていただけたと思います。

## 卒業課題展

2月29(金)~3月6日(木)

「ものづくりを通して」

学校長 林 恵 彰

何度も改良を加えてよりよい作品に仕 上げてきたようです。 駆使して熱っぽく発表していました。 行いますが、自分たちのグループが制作 にことなどを、一・二年生にパソコンを 課題研究」の授業を中心に個人又はグ 度試作して、問題点をチェックし、 組んできた作品を見ていただきました。 てきた作品や特徴や工夫点、苦労し 展覧会の前に「課題研究発表会」を ープでテーマを決め、一年がかりで取 「卒業課題展」では、三年生が

もいました。しかし、ものづくりを通し が一つ付着してしまい苦い思いをした人 づいたようです。 強く取り組んできたかが大切なのだと気 指紋が無くなりそうになりながら頑張っ を何度も塗り、磨きを繰り返し、手の るゲーム機を作っていました。また、漆 品を作っており、見学者が十分楽しめ て、どのように工夫をし、諦めずに粘り てきたのに、最後の仕上げの段階で埃 「遊び」をテーマに完成度の高い作

ちのいろんな体験物語が埋まっていて、 このように、作品の中には、生徒た 優 作 科 最 秀 品



電子機械科





デザイン科







ーホッケ



「げた箱のデザイン」

「シルバーアクセサリ

され、具象的表現作品から、

T

抽象彫刻まで10点の作品を展示

対照的に、舟木氏は人物から

ダンな作風まで多彩な表現と重

# 3月13日(木)~4月3日(木)

堀田

清·船木佳彦

卒業課題を終えて」

界に挑戦することにしました。シルバーアクセサリーは小物 毎晩深夜まで制作を行いました。十分に満足のいく作品と はなりませんでしたが、三年間の集大成として思い出深い作 大変でした。実習の時間だけでは足りず、自宅へ持ち帰り れませんが、デザインが細かくなればなるほど時間がかかり ですので短時間で制作できるといったイメージがあるかもし の制作を選び、これまでに培った技術を駆使し、 たせいか、卒業課題も自身の原点であるシルバーアクセサリー 味を持ったことがきっかけとなったようです。その思いがあっ 法を学びましたが、小学生の頃、シルバーアクセサリーに興 工芸科の金属工芸コースで、金工に関する多くの技術や技 私は、卒業課題でシルバーアクセサリーを制作しました。 平成19年度工芸科卒業生 正和 自分の限 朗実

> た3月中旬から4月始めにかけ 展が桃の節句も過ぎ春めいてき されているベテラン彫刻家2人

自由美術協会と二紀会に所属

のづくりの面白さ、そして厳しさなど、この体験を今後に生 役割を果たすことで、すばらしい作品となっていました。 電子機械、電気、建築科のグループ制作では一人ひとりが は職人並の技術で制作を行っていた人もいました。機械、 品になったと思います かしていきたいと思います また、卒課展では完成度の高い作品が多数見られ、中に も

ある独特の色調も会場に和ら く溶けこみ魅力的でした。 彫刻の表面に施された暖かみの に柔らかい動きとほど良い量感、 本展には「裸婦像」10点を中心 女性の美しさを追求されており、 て開催されました。 堀田氏はライフワークとして、

の色相で迫力 量感ある彫刻





られました。 デッサンも飾 又、二人の

## 平成19年度 (二〇〇七)-----芸術院賞に藤森氏 (昭和29年)



られる日本芸術院 績があった人に贈 や芸術の進歩に功 卓越した芸術作品 日本芸術院は、

28日発表した。 が選ばれたと3月 洋画家藤森兼明氏 賞に、本校出身の

という。本校では佐々木大樹、山崎覚太 郎、山室百世、 まを強く感じさせた点などが評価された 美術と女性像を組み合わせて人の生きざ 展出品作「アドレーション サンビター レ」。視覚的な人物表現や、 で6人目となる快挙である。 郷倉千靭、大角勲に次い 成19年の第39回日 キリスト教

りである。 を継承する我々同窓生にとって大きな誇 り高きを求めてやまない「尚美」の精神 度に一層輝く大輪の花を添えられた。よ 本校の尚美展百回記念である慶賀な年

〇高岡市民美術展

招待作家作品の展示

催 事 案

内

〇同窓生ギャラリー

4月18日金~5月5日月

5月31日出より1階全フロアーにて開催

紹介は次号にさせていただきます。藤森氏受賞記事掲載のため、本年度の寄贈作品の

中村哲浩親子三代書作展

## 常設展Ⅲ • Ⅳ期と新収蔵品展

1月:2月 3月9日火~4月4日田

ら受け継いだ美術品を中心 に紹介しました。 芸学校が誕生する折、 Ⅲ期は絵画、工芸(木工) 本年度の常設展では、 県か

品などを展示しました。ま 年度生徒による浮き彫り作 像の他、 デザインの作品を主とし、 木工では江戸時代の弘法師 同35年漆芸科を卒業さ 創校直後の明治32

受賞対象作は平

感じていただきました。 である臨画集も陳列し、往時の学習の方向を れた塩崎一郎氏の一学年在学当時の実習作品 また、 N期は、掛軸と彫刻、さらに工芸か

ら陶磁を展示し、掛軸では古代中国明時代の

呂紀作と伝えられる「蓮花鷲図」、 わい深い作品を展示しました。 江戸初期に作られた「黄瀬戸小花生」など味 年の00周年以降今日まで 品に多くのご観覧があり を常設展に併せて前後2 回展示し、見応えある作 工芸・書道・デザイン等 の日本画・洋画・彫刻・ 本校に寄贈された70点余 陶磁では

















青井記念館美術館はぐくみ会事務局

集

今年度、美術館にとって最大の事業は10月に開った時期によって最大の事業は10月に開いた。今日まで多くの卒業生から200余点の作品が寄贈されており、本展では1輝ける作家たちの軌跡1を入口り、本展では1輝ける作家たちの軌跡1を入口り、本展では1輝ける作家たちの軌跡1を入口り、本展では1輝ける作家たちの軌跡1を入口り、本展では1輝ける作家たちの軌跡1を入口り、本展では14年のら昭和57年度卒また、特別展示しました。業生や生徒と保護者など家族連れが目の市美術館、千葉県立美術館より作品をお問題でした。東日本の大が作品を関いている。 うございました。(城宝記)笑顔で来館者に接していただき、一年間ありがと笑顔で来館者に接していただき、一年間ありがとの釣さんが家庭事情の為、3月で退職いたします。

集発

青井記念館美術館はぐくみ会 富山県立高岡工芸高等学校 F TEL(O七六六)二一一六三〇 AX(O七六六二二-一六三二 所 533-858 高岡市中川 --

# はぐくみ会会員募集のおしらせ

主な活動 申し込まれた日から一年間会員となります はぐくみ会では会員を募集しています。

- ・青井記念館美術館への協力・支援
- ・中学生美術展(青井中美展)への支援
- ・企画展等の案内
- 年会費 ・はぐくみ会だよりの配布

お問い合わせ・申し込み先 特別会員(企業、団体等) 般会員(個人) 10000円

\*青井記念館のホームページを開設しております。 http://www.tym.ed.jp/sc350/aoi/index.htm